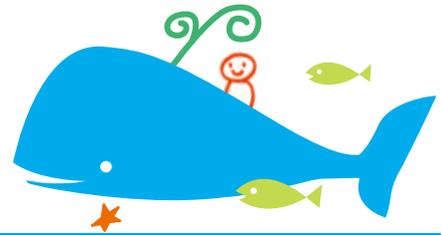


あおぞら財団 年次報告書 Vol.14



10/16 淀川親子ハゼ釣り大会



4/18 菜の花プロジェクト in 西淀川高校



12/22 キャンドルナイト in 西淀川

撮影：藤井克己



8/5-8 公害地域の今を伝える
スタディーツアー（新潟）



10/3 タンデム自転車を楽しむ会

もくじ

2010年度事業をふりかえって 2

地域づくり 西淀川交通まちづくりプロジェクト 4

資料館運営 公害反対運動が果たした役割が分かる 5

環境学習 地域に広がる 廃油回収の活動 6

環境保健 呼吸リハビリを患者の生活圏で 7

国際交流 国際交流事業 2010 8

寄附・寄贈者 9

財政状況 9

役員・職員 9

「あおぞら財団」活動に関する資料 10

ボランティア、インターン参加者 12

手渡したいのは青い空

2011年9月

2010 年度事業をふりかえって

■ 2010 年度の方針

2010 年度は、第 4 次事業計画のスタート年として、第 3 次事業計画での調査・研究の蓄積、地域とのつながり、実践の経験、研究者・専門家らとのネットワーク等をフルに活用して、各分野での取り組みを一層発展させるとともに、「将来構想検討委員会」で検討してきた重点事業のうち、環境フロンティア講座の継続と共に、それ以外の重点事業についても積極的に着手していくことを方針に掲げた。

財政に関しても、厳しい財政状況が続くなかで、引き続き財政改善に向けて努力していくこととした。組織的にも、新たな職員採用、人的資源の適正配置、特別研究員制度の活用、常務会の定期的な開催など、事業施行体制の一層の整備強化を図っていくこととした。

個別事業としては、参加型交通まちづくりの取り組みなどの地域づくり、公害地域の今を伝えるスタディーツアーの取り組みなどの資料館活動、西淀川 ESD ネットワークの継続と菜の花プロジェクトの推進などの環境教育、公害患者らの呼吸リハビリの普及と未認定患者らの救済問題への取り組みを中心とした環境保健、中国を中心とした公害経験を伝える国際交流活動を一層充実させていくこととした。

そして、こうした事業や取り組みを推進するために、研究者ネットワークづくり、財団を物心両面から支えるサポーター（賛助会員）の拡大、「ボランティアの日」をはじめ事業活動に協働して取り組むボランティア制度とアルバイト・スタッフ制度の強化、インターン生の積極的な受け入れ、寄付金集めの強化等を進め、引き続き市民・住民とともに歩む自立した財団をめざしていくこととした。



講師 宮本憲一氏

環境フロンティア講座の様子

■ 2010 年度の総括

2010 年度は、上記方針に基づいて各分野での取り組みを進めてきたところであり、重点事業に関しても、環境フロンティア講座以外の事業も順次着手し取り組みの一層の充実を図ってきた。

重点事業では、環境フロンティア講座は 2009 年度の第 I 期に引き続き、第 II 期、第 III 期を開講し、それぞれ約 100 名の参加があり定着を見ている。また、懸案であったあおぞら会館 1 階スペースの地域交流拠点化事業も、地域の皆さんやボランティアの方々の協力を得て、地域交流スペース「あおぞらイコバ」をオープンさせ、徐々に活用が進んでいる。

地域再生プロジェクトに関しては、2009 年度の成果を踏まえて西淀川交通まちづくりプロジェクトを実施し、2010 年 2 月に提案書をまとめ、区役所との意見交換会を開催した。資料館事業としては、環境再生保全機構「大気汚染と裁判」に係るホームページコンテンツの制作業務として「記録で見る大気汚染と裁判」を完成させ、2 年目を迎えた公害地域の今を伝えるスタディーツアーも、「新潟・水俣病の地を訪ねて」を 43 名の参加者で実施した。環境教育の分野では、西淀川 ESD の具体的な活動として、引き続き西淀川菜の花プロジェクトを推進し、大野川緑陰道路を活かした環境学習として大野川緑陰道路サロンも推進している。環境保健事業では、前年度に続いて、呼吸ケアの提供をめざしたぜん息・COPD 発症予防等情報発信事業（環境再生保全機構）を実施し、ぜん息患者の医療費救済制度の創設をめざす「あおぞらプロジェクト大阪」の活動にも参加した。国際交流事業は、今年度は環境教育をキーワードとして中国との交流事業を行った。

財政的には、2010 年度も厳しい状況が続いており、抜本的な対策の検討が求められている。組織的には、職員の退職が相次いたが、新たな職員も入所し、公益法人への衣替えも順調に進んでいる。

なお、東日本大震災への支援としては、いち早く岩手県に職員等を派遣し、被災者を支援する現地 N G O の求めに応じて自動車一台（あおぞら号）を寄贈し喜ばれ、活用されている。また、原発事故とエネルギー政策の問題では環境フロンティア講座において取りあげることになっている。



■重点事業

2009年度より、財団10年の蓄積と弱点、財団の使命という視点からアプローチした将来構想に基づく重点プロジェクト（①環境フロンティア講座、②自転車を活かしたまちづくり、③あおぞらビル1階交流拠点化、④情報発信）を進めており、2年目となる2010年度は、他の取り組みと連携させながら、下記のように展開しました。

1) 環境フロンティア講座の開催

2010年度については、《第2期》市民参加の実践例から学ぶ～私からはじめる環境活動（実践編：6～7月）、《第3期》都市における”みどり”と私たち（理論編10～12月）を開催しました。（表1参照）

2) 自転車を活かしたまちづくりの推進

あおぞら財団では、自転車文化タウンづくりの会（2008年設立）の事務局として、自転車を活かしたまちづくりを進めています。同会では、自転車寺子屋、第一回まちなか自転車空間コンクールの実施（募集4/15～5/15）、上町台地自転車マップづくり、自転車まちづくり交流イベント2011「これからの自転車まちづくり」の開催（1/23）、自転車まち巡りツアーなどを行なっています。

また、これまでもタンデム（二人乗り）自転車の普及を進めてきましたが、関係5団体と協力し、「大阪でタ

ンデム自転車を楽しむ会」を設立（12月）し、体験会の実施など普及活動を行うことになりました。併せて、タンデム自転車の貸し出しをスタートさせました。

3) あおぞらビル1階の交流拠点化

地域住民やボランティアの協力を得て、あおぞらビル1階駐輪場を地域交流スペース「あおぞらエコパ」として改修を行い、12月4日にオープニングイベントを開催しました。その後も、会合や写真展、コンサートなど様々な用途で活用されています。

4) あおぞら財団ホームページリニューアル

多くの人にホームページへアクセスしてもらえるように、ホームページをリニューアルしました。大きな変更点は、ブログの更新をホームページに表示するようにしたこと、ワードプレスという方式を使っているの、ホームページ編集ソフトを使わなくとも、ホームページの更新をする事ができるようになったことで、ホームページ更新頻度が上がり、財団の活動が見えやすくなりました。ツイッターも始めています。訪問者数はリニューアル前の2倍に増えています。

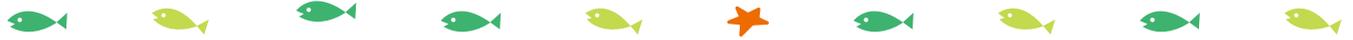
表1. 環境フロンティア講座の詳細

期	テーマ	講師	参加人数
第1期 (1月14日、1月28日、 2月18日、3月4日)	知っておきたい基本のき 公害・環境問題に取り組むってどういうこと？	新田保次氏、宮本憲一氏、 松村昭夫氏、植田和弘氏	のべ90人
第2期 (6月11日、6月18日、 7月2日、7月16日)	市民参加の実践例から学ぶ！ 私からはじめる環境活動	松村暢彦氏、中西敬氏、 西村仁志氏、高田研氏	のべ87人
第3期 (10月29日、11月12日、 12月3日、12月17日)	都市における“みどり”と私たち	小浦久子氏、岡秀郎氏 内平隆之氏、進士五十八氏	のべ123人

■個別事業

1. 公害のない住みよい地域づくりを進める活動
(地域づくり) → P.4 へ
2. 資料館の運営とネットワークづくり (資料館) → P.5 へ
3. 公害の経験や地域の歴史を活かした環境学習
(環境学習) → P.6 へ
4. 公害病患者等の健康回復や生きがいづくりを進める
活動 (環境保健) → P.7 へ
5. 国際交流 → P.8 へ

個別事業の詳しい報告についてはホームページで
公開している事業報告書をご覧ください
<http://aozora.or.jp/johou>



「西淀川交通まちづくりプロジェクト」 ～交通まちづくりの討議の場づくり、人づくり～

■交通まちづくりプロジェクトに取り組んでいます

買い物や仕事、通学や通院、旅行など、何をするにも必ず移動が伴います。あおぞら財団では、移動を支える交通まちづくりについて考える「西淀川交通まちづくりプロジェクト」を2009年度より進めています。

2010年度の交通まちづくりプロジェクトには、二つのねらいがあります。一つは、場づくりー市民が交通まちづくりについて議論する場を作ること。市民が気軽に議論できるように、1ヶ月に1回程度、約2時間の会合を行いました。二つめは、人づくりー交通まちづくりに関わる市民を増やすこと。そのために、議論で他の人の様々な意見を知り、まちあるきや調査を行うことで交通まちづくりの必要性について実感してもらう工夫をしました。

取り組みは、前年度に行った意見交換会を継続する形で、区内住民の方々10名程度に参加いただき、計8回の会合を行いました。基礎知識の習得（第1～3回）、地域内の移動・交通に関する調査（第4～6回）、調べた／話し合った内容の活用方法検討（第7～、8回）という流れで行ないました。



あおぞらイコバでの会合

■JR塚本駅周辺の自転車を活かしたまちづくりの提案

とりまとめた提案では、放置自転車が多いJR塚本駅周辺について、自転車を活かした「西淀川の顔」としてにぎわいのある空間整備を目標としました。具体的には、「低未利用地を活用した駐輪場整備」、「駐輪場料金の弾力化」、「利用者目線のわかりやすい案内看板の設置」「JR塚本駅周辺の自転車対策協議会の設置」などです。

同案は、2月28日、区役所に提案し、プロジェクトのメンバーとの意見交換を行いました。メンバーからは、

「区の方針を踏まえて、市民ができることを考えたい」「住民のアイデアをどこに持って行けばよいのか知りたい」といった意見、区役所からは「区は、地域の人々の積極的な協力を必要としている。できることから取り組んでいきたい」という意見がありました。



JR塚本駅周辺のまち歩き

■交通まちづくりプロジェクトを継続していくには

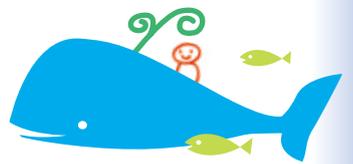
2010度の活動は、区役所との意見交換会で一旦終了しました。今後は、様々な機関や組織と協働して行政施策に反映されるように、また、参加者が増えるように、適切に広報を行ったり楽しく活動したりできるよう工夫しながら取り組んでいきたいと思ひます。

(藤江 徹)

2010年度交通まちづくりプロジェクトの流れ

STEP1		STEP2	
基礎知識の習得		地域内の移動・交通に関する調査	
第1回 7/17(土)	・車椅子利用者のお話 ・模擬体験	第4回 10/23(土)	・話し合い →放置自転車の多いJR塚本駅を調査
第2回 7/24(土)	・視覚障害者のお話 ・模擬体験	第5回 11/13(土)	・JR塚本駅の放置自転車と駐輪場を確認 ・課題整理
第3回 8/21(土)	・専門家のお話 ・西淀川区の移動、外出について話し合い	第6回 12/11(土)	・必要な対策を話し合い

STEP3	
調べた／話し合った内容の活用方法検討	
第7回 2011年 1/19(土)	・区役所への提案内容、方法を話し合い
意見交換会 2011年 2/28(月)	・区役所と意見交換



公害反対運動が果たした役割が分かる

「公害経験を伝えたい」という公害患者の願いに応えるべく、西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）では、資料の整理や公開を行ってきました。2009年度から2010年度にかけて独立行政法人環境再生保全機構の事業として、日本の大気汚染裁判が簡単にわかるホームページを作成しました。大気汚染裁判の概要がわかる上に、各地の裁判についてどこで詳しく勉強できるのかもわかるように連絡先を記載しています。また、西淀川公害と全国の反対運動に関しては、資料をホームページ上で公開しています。

反対運動の中心で裁判の原告となった患者会の活動が分かる総会議案書・ビラは年表とリンクして読めるようにしています。



—活動の年表—

<http://nihon-taikiosen.erca.go.jp/taiki/nisiyodogawa/history.html>



—大気汚染裁判トップページ—

<http://nihon-taikiosen.erca.go.jp/taiki/>

■各地の情報がわかる

大気汚染公害裁判を起こしたのは四日市・千葉・西淀川・川崎・倉敷・尼崎・名古屋南部・東京の7地域です。7地域の裁判の概要が一目でわかり、かつ、それらの資料がどこに保存されているかがわかるようにしました。

■資料検索ができる

エコミューズは約32,000点の資料を所蔵していますが、その中から6,000点の検索をできるようにしました。6,000点のうち、900点はPDFファイルで資料を閲覧できます。

■画像を押せば資料が読める

西淀川公害の裁判資料（訴状、書証、準備書面、証人調書、判決、和解）がホームページ上で読めるようになりました。また、裁判の概要が分かるように各資料に解説文が添えてあります。



—裁判資料—

<http://nihon-taikiosen.erca.go.jp/taiki/nisiyodogawa/saiban/>

グーグルマップを活用して、大気汚染の写真を地図上のマークを押せば大気汚染の写真を見ることができます。50年前の日本が煙に包まれていたことが実感できる写真ばかりです。



—西淀川大気汚染の写真—

<http://nihon-taikiosen.erca.go.jp/taiki/nisiyodogawa/photo.html>

■全国の公害反対運動がわかる

30年以上続く全国公害被害者総行動や、公害健康被害補償法の第一種指定地域（大気汚染）解除の反対運動の資料もホームページ上から読めるようにしている。総行動の資料からは大気汚染だけでなく、水俣病やイタイイタイ病、空港裁判など公害についても学べます。

<http://nihon-taikiosen.erca.go.jp/taiki/abstract/>

公害をなくすために住民の反対運動が果たした役割は大きいのですが、多くの人にその力をこれらの資料から学び、研究してほしいと願っています。それが、公害患者が願う「公害経験を伝える」ことにつながると信じています。

(林 美帆)



地域に広がる 廃油回収の活動

■ 4年目を迎えた西淀川 ESD

2007年度に環境省のモデル地域となり始まった西淀川 ESD* の活動も4年目を迎えました。2010年度の成果として、①廃油キャンドルナイトの開催、②佃連合振興町会での廃油回収開始が挙げられます。

■ 多くのボランティアに支えられた廃油キャンドルナイト

活動を多くの人に知ってもらおうと「キャンドルナイト in 西淀川～廃油キャンドルで緑道を灯そう～」を開催しました。廃油キャンドルに使うビンの提供を呼びかけたり、キャンドルシェードには子供達に絵を描いてもらう等、できるだけたくさんの方が関わることができるよう工夫しました。

廃油キャンドルは、放課後や休日に中学生や高校生があおぞらビルに集まり作りました。完成した廃油キャンドルは1300個、リサイクルした廃油は130ℓです。イベント当日は60人のボランティアが集まり、交通整理や廃油キャンドル点灯などにかかりました。

● 手間がかかったのですが、楽しく友達と作業ができたので、嬉しかったです。イベントにはたくさんの方が来てくれて、驚きました。

● リサイクルでこんな事もできると知り、この事を皆さんに知ってほしいと思いました。

上記はボランティアに参加をした高校生の感想です。この活動が、子どもから大人まで、環境問題に取り組む場となり、みんなで取り組む楽しさや大切さを実感する場になればと思います。



キャンドルを着火する西淀川高生



STOP 温暖化シロベエと仲間たちに扮する大経大生

■ 佃連合振興町会で廃油回収はじまる

～「エコでつながる西淀川」へ～

2010年秋からは佃連合振興町会が廃油回収を始めました。振興町会をあげての回収は、面的に回収が広がる大きな一歩です。また2011年度2012年度の2カ年は「エコでつながる西淀川～廃油回収・環境教育でつながる老人と子どもたち～」という活動名で、トヨタ財団から助成を受けることになりました。(詳しくはリベラ2011年5月号の記事をご覧ください。)

環境やまちづくりが大切なことは分かっている、日ごろの忙しさや機会もない等の理由で何もしていない人は多いのではないかと思います。この廃油回収の活動が、だれもが気軽に参加できる環境問題への実践の場となり、地域の人々の絆を深める事につなげたいと思います。実り多い活動にしていきたいと思いますので、どうぞ注目ください。

*ESD…「持続可能な開発のための教育」

(Education for Sustainable Development) の略称です。

(小平智子)

写真提供: 藤井克己



呼吸リハビリを患者の生活圏で

■患者向け、医療従事者向け講習会を実施

ぜん息やCOPDなど慢性的な呼吸器の病気を持つ人たちの身近で、呼吸リハビリテーションを提供する仕組みを作ろうという取り組みが西淀川区をモデルに進んでいます。呼吸リハビリテーションは、息切れなどで日常生活行動に支障のある患者に少しでも「楽な呼吸」を身につけてもらおうというのですが、その普及には、①患者・家族に対する呼吸リハビリに係る情報提供とあわせて、②地域における呼吸リハビリテーションのアクセス向上のための医療提供体制の確立が欠かせません。

そこで、平成21年度には①患者・家族に呼吸リハビリテーションの効果を体感するための、患者向け体験講習会を開催（2011年3月9日）、参加者によるワークショップでは、患者同士の支えあいの中で、症状の増悪予防と療養生活に欠かせない自己管理の大切さを学ぶ②呼吸リハビリテーションの担い手を育成するための医療従事者向け講習会を開催（2011年2月26日）、医療従事者による人材ネットワーク構築をめざす③事業の効果を確保するため、地域医療機関の協力のもとにワーキング会議を開催。患者の生活圏において、継続的に呼吸リハビリにアクセスできるための仕組みづくり、患者等に対する情報提供の効率的・効果的なあり方等について検討しました。

今回の事業では、講習会を通して、医療従事者および患者それぞれに、呼吸リハビリの効果と患者の生活圏で実施することの重要性を伝えることができ、参加者の多くが自分も取り組みたいと考えていることが明らかになりました。



医療従事者向け講習会の様子



ぜん息・COPDの患者との懇談会の様子

■患者同士がお互い励ましあって

「あおぞらプロジェクト西淀川」が懇談会

大気汚染によるぜん息などの健康被害をなくし被害者救済のための医療費助成制度を求めて活動している「あおぞらプロジェクト大阪」は2011年3月、大阪府に40802人の要請署名を提出しました。署名は、大阪府に「せめて医療費だけでも無料に」の願いの実現を求めるもので、10万人を目標に取り組みられていました。同プロジェクトでは新たに、全国公害患者の会連合会の呼びかけで取り組まれている「大気汚染公害被害者に対する新たな救済制度を求める請願」署名（衆参両院議長あて）とあわせて、府議会への請願署名に取り組むことにしています。

西淀川では「あおぞらプロジェクト西淀川」が、署名や宣伝活動と並行して、ぜん息・COPDの患者との懇談会を続けています。（平成21年度は3回）懇談会には毎回、公害健康被害補償法の指定地域解除（1988年）後にぜん息やCOPDの病気になった患者らが参加し、療養生活の悩みを出し合っています。また、薬剤師や看護師らの協力を得て、薬の知識、ピークフロー測定など、症状の悪化を防ぎ、自己管理の大切さを学ぶ取り組みを行いました。

（上田敏幸）



国際交流事業 2010

■大気汚染経験情報発信事業を実施しました

2010年度の国際交流事業は、環境省から「大気汚染経験情報発信事業」を請け負い、下記の業務を進めました。

本年度は、これまで既に取り組みられてきた日中協働による環境教育の取り組みの現状について聞き取り調査(5団体)を行ったり、環境教育に活用できる公害・環境問題に関する既存資料(5点)を翻訳・HP上に掲載し、情報発信を行いました。

また、8月28日～9月2日にかけて、中国環境NPOとの交流、中国における公害被害地域の視察のため中国を訪問、上海→哈爾濱→北京を巡り、NGO、各種機関、被害者に聞き取り・意見交換等を行いました。

さらに、国内での日中環境問題に関する交流会「日中環境問題サロン2010～対話から築く日中の環境教育の協働～」を11月27日に京エコロジーセンターにて開催しました(約50名参加)。続く、平成23年2月27日に、日中の公害・環境問題を考える学生セミナー2010「大阪・西淀川 大気汚染公害フィールドワーカー」をあおぞらビル3Fにて開催しました。環境問題に関心がある学生、中国からの留学生など12名が参加しました。

日中環境問題サロン2010開催にあたっては、李力氏(環友科学技術研究中心・会長/北京)、張亜東氏(緑色龍江・総幹事/ハルビン)を招き、西淀川区の視察、西淀川患者会との交流をはじめ、大阪府立西淀川高等学校にて李力さんによる環境教育の模擬授業を区内の中学生(淀中学校生徒会5名)と高校生(10名)が体験するなど、今後の日中交流に向けての意識の共有と展望を得る事ができました。



西淀川高等学校にて模擬授業

■海外からの視察受け入れ

「西淀川・公害と環境資料館」では、海外からの視察・研修として、韓国司法修習生(7月5日)や中国・環境汚染損害賠償制度構築研修(10月27日)の視察受け入れを行ないました。

■「第三回日中NGOシンポジウム ～環境教育をめぐって～」に参加

2011年2月23～26日まで中国・北京で開催された「第三回日中NGOシンポジウム～環境教育をめぐって～主催：JICA(日本国際協力機構中国事務所)とCICETE(中国国際経済技術交流中心)に藤江が参加しました。同シンポでは、日本から12団体、中国から50団体ほど、100人以上の参加者が2日間に渡って、ワークショップや活動の報告、今後の環境教育の発展に向けての意見交換を行ないました。

日中を中心に海外・国内の方々と顔の見える関係を土台にした様々な形での国際交流が進んだ一年となりました。

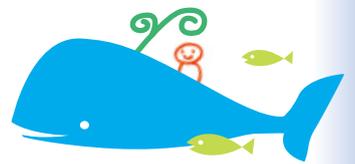
(藤江 徹)



日中環境問題サロン2010の様子



日中の公害・環境問題を考える学生セミナー2010



2010年度寄附・寄贈者（敬称略）

浅井真二	金谷邦夫	諏訪哲郎	原田智代
天坂幸治	蒲田雄輔	芹沢芳郎	坂東克彦
天野憲一郎	川崎美栄子	辰巳正夫	福本富男
新井真	北泊謙太郎	田中佳世	藤井克己
安藤俊介	木野達夫	田中洋子	藤岡太造
石井琢也	金盛子	津留崎直美	牧隆三
井関和彦	功刀恵美子	土井妙子	松富謙一
伊藤卓次	蔵本幸治	都倉武之	松村暢彦
井上善雄	粟谷至	豊中市	眞鍋麻衣子
上杉剛	小磯明	中島晃	宮崎悦子
植田和弘	小坂茂樹	中杉喜代司	村松昭夫
上田敏幸	小谷通泰	長瀬文雄	森実千秋
上田長生	小林俊康	中村昌史	森田紗世
上田幹枝	是枝洋	西川日奈子	森山正和
遠州尋美	佐賀朝	西口勲	山崎圭一
遠藤宏一	酒井健一	西村勝男	山田喜美子
太田靖雄	坂本浩二	西村聡	山中英生
尾崎寛直	坂本裕子	西村弘	山本元
小田康德	佐藤寿	西山俊夫	山本康子
笠井俊彦	清水万由子	新田保次	吉村良一
柏原純夫	庄谷邦幸	野呂汎	米田憲司
片岡直樹	杉山弥生	林久和	

大阪から公害をなくす会
 (有)大阪ファルマプラン
 大阪歴史博物館
 沖縄県公文書館
 学習院大学大学院
 環境省
 環境と人間のふれあい館 新潟水俣病資料館
 環境友好公益協会
 交通エコロジー・モビリティ財団
 (株)神戸製鋼所法務部
 国文学研究資料館
 新地島 街づくり研究会 篠原正
 (株)すいれん舎
 全国公害弁護団連絡会議
 全日本民主医療機関連合会
 西淀川公害患者と家族の会
 西淀川子どもセンター
 日本野鳥の会・大阪支部
 水島地域環境再生財団
 緑色竜江

財政状況（2010年4月1日～2011年3月31日）

(単位:円)

収入		支出	
資産運用益	801,861	事業費	38,796,457
会費	1,498,000	管理費	20,777,942
受託金等	26,260,200	積立金取得支出	1,961,736
寄付金	1,692,565		
雑収入	3,517,857		
積立金取崩収入	23,300,000		
合計	57,070,483	合計	61,536,135
		当期収支差額	△4,465,652

役員等／職員（50音順、敬称略）

この項は2011年7月1日現在のものです。

理事長	村松 昭夫 (弁護士、全国公害弁護団連絡会議幹事長)
理事	植田 和弘 (京都大学大学院経済学研究科教授) 金谷 邦夫 (内科医師、生活協同組合ヘルスコープおおさか理事長) 高田 研 (都留文科大学文学部社会学科教授) 長瀬 文雄 (全日本民主医療機関連合会事務局長) 新田 保次 (大阪大学大学院工学研究科教授) 藤江 徹 (公益財団法人公害地域再生センター事務局長・研究員) 森脇 君雄 (全国公害被害者総行動実行委員会代表委員、西淀川公害患者と家族の会会長) 山崎 光信 (株式会社山崎シャワーリング会長)
監事	津留崎直美 (弁護士) 山崎 義郷 (原水爆禁止大阪府協議会副理事長)
評議員	飯田 秀男 (全大阪消費者団体連絡会事務局長) 太田 映知 (財団法人水島地域環境再生財団専務理事) 神吉紀世子 (京都大学工学研究科教授) 辰巳 致 (NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク理事長、デイスサービスセンターあおぞら苑施設長) 中島 晃 (弁護士、龍谷大学法科大学院客員教授) 永野千代子 (西淀川公害患者と家族の会事務局長) 西村 弘 (関西大学社会安全学助教授、大阪市立大学名誉教授) 早川 光俊 (弁護士、NPO法人地球環境と大気汚染を考える全国市民会議専務理事) 松本 嘉子 (財団法人淀川勤労者厚生協会常務理事) 和久利正子 (大阪公害患者の会連合会事務局長)
顧問	アグネスチャン (歌手、教育学博士) 進士五十八 (東京農業大学名誉教授、前東京農業大学長、日本学術会議会員) 宮本 憲一 (大阪市立大学名誉教授、元滋賀大学学長) 森脇 昭夫 (特定非営利活動法人日本気候政策センター理事長、(財)地球環境戦略機関特別研究顧問、中央環境審議会臨時委員、名古屋大学名誉教授)
事務局	相澤 翔平 (研究員) 上田 敏幸 (研究員) 小平 智子 (研究員) 林 美帆 (研究員) 藤江 徹 (事務局長・研究員) 鎗山 善理子 (会計・研究員) 谷内 久美子 (特別研究員) 南 聡一郎 (特別研究員)



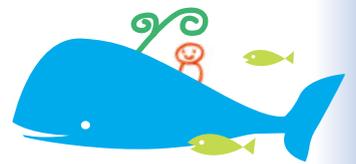
「あおぞら財団」活動に関する資料 (2010. 4~2011. 3)

1. 財団活動に関する主な報道

日 時	報道機関	見出し・内容等
2010年4月11日	朝日新聞	あおぞらプロジェクト府民集会の予告記事。
2010年4月14日	産経新聞	あおぞらプロジェクト府民集会の予告記事。
2010年4月16日	読売新聞	あおぞらプロジェクト府民集会の予告記事。
2010年4月16日	毎日新聞	あおぞらプロジェクト府民集会の予告記事。
2010年4月17日	朝日新聞	西淀川高校の菜の花プロジェクトの取組紹介記事。
2010年4月24日	朝日新聞	事業仕分け第2幕が始まる。「環境再生保全機構」の対象選定に反発、大気汚染被害患者。
2010年5月7日	産経新聞	緑陰道路サロンでさわやか苑の市民共同発電所を訪れる予定であることを掲載。
2010年6月8日	朝日新聞	イ病の「今昔」HPに。富山スタディーツアーを紹介し、財団のHPについて掲載。
2010年8月7日	新潟日報	新潟水俣病 忘れず教訓に(スタディーツアー)
2010年8月10日	朝日新聞 新潟版	新潟水俣病「スタディーツアー」43人参加 ※(スタディーツアー)
2010年8月18日	赤旗	ぬけがら探しセミ分布調査(環境学習)
2010年10月7日	読売新聞	29日から環境講座(環境講座)
2010年10月21日	朝日新聞	講座・講演◆環境フロンティア講座(環境講座)
2010年10月24日	赤旗	◇環境フロンティア講座(環境講座)
2010年11月20日	毎日新聞	中国の環境問題学ぼう(日中交流)
2010年11月26日	京都新聞	中国環境問題考えるシンポ(日中交流)
2010年12月11日	リビング豊中・池田	キャンドルナイト in 西淀川(菜の花プロジェクト)
2010年12月21日	朝日新聞 泉州版	廃油キャンドルでエコ啓発(菜の花プロジェクト)
2010年12月22日	大阪日日新聞	エコな明かり 1300個(菜の花プロジェクト)
2010年12月22日	朝日新聞	あす西淀川で「キャンドルナイト」メリー・リサイクル ※
2011年1月6日	朝日新聞	◇自転車まちづくり交流イベント2011「これからの自転車まちづくり」(自転車まちづくり)
2011年3月6日	大阪日日新聞	日本の「経験」を生かせ 公害や環境汚染 日中学生ら対策探る

2. 部原稿等

出版年	書籍名	内容等
2010年3月31日	新修豊中市史	第6章大都市圏における近代都市としての展開 第4節都市発展と公害・環境問題(林)
2010年4月25日	環境と公害 日立環境財団機関誌 「季刊・環境研究」	「環境再生のまちづくり」の理論と運動 —大阪・西淀川という「場」を介した両者の相互規定的な展開について— (除本・入江・尾崎・林) 約束—きれいな空気と青い空を子どもたちに手渡すために Promise - To Hand Clean Air and Blue Sky To Children (森脇)
2010年7月	よっしゃ NO5 (NPO 法人西淀川子どもセンター会報)	やってみよう ECO 活動(その4) 改めて、自転車(藤江)
2010年7月23日	ENVIROASIA(日中韓環境情報サイト)	菜の花プロジェクトの紙芝居&絵本ができました(林)
2010年9月15日	東京経済大学学術研究センター ワーキングペーパーシリーズ	西淀川公害と「環境再生のまちづくり」(共著、林)
2010年12月3日	ENVIROASIA	公害地域の今を伝えるスタディーツアー 2010 ～新潟水俣病の地を訪ねて(眞鍋)
2011年1月	よっしゃ NO6 (NPO 法人西淀川子どもセンター会報)	やってみよう ECO 活動(その5) 廃油キャンドルナイトづくり(藤江)
2011年1月14日	ENVIROASIA	対話から築く日中の環境教育の協働(鎗山)
2011年2月4日	ENVIROASIA	「まちのお医者さんになろう」子どもと一緒に、西淀川の生物調査(小平)
2011年3月	『環境省平成22年度 地域におけるESDの取組強化推進業務ESDコーディネーター育成のあり方検討調査報告書』 エコまちネットワーク・よどがわ ニュースレター7号	ESD コーディネーター養成講座(林) 『ECO な地域の店 Cafe Slow Osaka』 『エコまちニュース 灯そう「エコの火」～廃油キャンドルナイト開催～』



3. 対外活動

日にち	形式	内容
2010年4月27日	講師	大阪経済大学講義（小平）
2010年5月7日	パブコメ	「交通基本法の制定と関連施策の充実に向けて－中間整理－」に関する意見の募集について
2010年5月8日	講師	大阪経済大学講義（小平、森井）
2010年5月18日	講師	大阪経済大学講義（小平）
2010年5月20日	講師	桃山学院大学フードマイレージ講義（林）
2010年5月23日	講師	「公害ノー喚気所に脱硝装置の取り付けを！此花区民集会（主催：正連寺川区民の会）」（藤江）
2010年6月11日	講師	寒河江青年会議所フードマイレージ講義
2010年6月15日	講師	大阪経済大学講義（小平）
2010年6月15日	講師	大阪教育大学社会文化講座研修（林）
2010年6月7日	委員	東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会（藤江）
2010年6月23日	講師	鳥取環境大学講義（林）
2010年6月24日	講師	西淀中学校2年生授業（林、鎗山）
2010年6月28日	講師	伊賀市立上野東小学校フードマイレージ（林）
2010年6月30日	講師	伊賀市立猪田小学校フードマイレージ（林） 伊賀市立依那古小学校フードマイレージ（林）
2010年7月1日	講師	伊賀市立上野東小学校フードマイレージ（林）
2010年7月3日	委員	東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会（藤江）
2010年7月8日	講師	西淀中学校にて公害患者語り部授業（林、鎗山、眞鍋）
2010年7月17日	講師	大阪経済大学地域・社会調査授業（小平）
2010年7月30日	講師	大阪経済大学・地域社会調査（小平）
2010年7月31日	講師	JICA大阪国際教育セミナー（林）
2010年8月16日	出展	西栄寺万燈会
2010年8月20日	講師	寝屋川市教育委員会フードマイレージ（林）
2010年8月21日	講師	吹田市立博物館フードマイレージ（林）
2010年9月11日	講師	京都自由学校「自転車の生活のススメ」（藤江）
2010年9月12日	講師	泉北菜の花プロジェクトキックオフ会議（林）
2010年9月14日	委員	環境と観光をつなぐ研究会ワーキング会議（鎗山）
2010年9月15日	講師	千代田高校フードマイレージ（林）
2010年9月16日	講師	徳島ぶらりエコカフェ（藤江）
2010年9月18日	講師	西淀川図書館キャンドル作り（林）
2010年10月3日	出展	佃高齢者ふれあいフェスタ
2010年10月7日	委員	第1回環境と観光をつなぐ研究会（鎗山）
2010年10月11日	出展	佃連合 体育祭
2010年10月13日	講師	物流環境管理士講座（藤江）
2010年10月14日	委員	東大阪市まちづくり助成審査会（藤江）
2010年10月15日	講師	神戸シルバーカレッジ（上田、小平）
2010年10月28日	講師	滋賀県立大学フードマイレージ（林）
2010年11月1日	講師	東大阪市新池島町WS（藤江）
2010年11月4日	講師	今宮高校授業（林）
2010年11月6日	出展	西淀川高校文化祭
2010年11月7日	出展	エコフェスタ in エキスポ サイクル&エコカーニバル
2010年11月11日	講師	神戸市シルバーカレッジ（上田、小平）
2010年11月12日	講師	神戸市シルバーカレッジ（上田、小平）
2010年11月21日	出展	フードマイレージメディア連携イベント イズミヤ和泉府中店
2010年11月28日	報告	地球環境基金助成団体報告会（林）
2010年12月1日	講師	平成22年度環境カウンセラー研修（上田）
2010年12月2日	講師	平成22年度学びの区民連続講座（上田）
2011年2月17日	委員	第3回環境と観光をつなぐ検討会（鎗山）



日にち	形式	内容
2011年2月17日	講師	徳島ぶらりエコカフェ (藤江)
2011年2月19日	指導	中高生がよむ環境問題かみしばい in 西淀川図書館 (林)
2011年2月20日	ゲスト	関西NGO大学 (林)
2011年2月20日	講師	フードマイレージ講義 (ガールスカウト) (眞鍋)
2011年3月2日	委員	東大阪市まちづくり助成金審査会 (藤江)
2011年3月5日	講師	東大阪市まちづくり助成金審査会&講演会 (藤江)
2011年3月12日	報告	第3回阪堺線活性化フォーラム (小平)
2011年3月17日	講師	徳島環境リーダー報告会 (藤江)
2011年3月19日	指導	西淀川図書館紙芝居 (林)
2011年3月19日	講師	佃1-3町会廃油キャンドルづくり (小平)
2011年3月22日	講師	淀川区わがまち会議 (藤江)
2011年3月24日	委員	第4回「私の水辺」実行委員会 (上田)

ありがとうございます

10年度お助けボランティア参加者 (敬称略)

相澤 翔平	立花 勇人	山本 彩加
浅井 真二	立花 勇人	吉永 佳奈
伊藤亜紀穂	田中 育絵	伊佐 華子
太田 靖雄	谷畔ツバサ	栗俣 恒平
大野みさ子	徳満 勇太	増田 一喜
岡崎 久女	二星 文哉	田村 憲佑
香川 史篤	萩原 公恭	東掘 優
柏原 純夫	馬場 勇介	林野 隆彦
柏原 和平	原 潤	
蒲原ヨシ子	藤井 克己	
小坂 茂樹	前田 浩輔	
小城	松富 謙一	
小林 泰子	南 聡一郎	
佐成 志朗	三宅 直樹	

10年度インターン参加者 (敬称略)

石川 大希 (環境学園専門学校)
長谷川まや (同志社大学3回生)
田中 育絵 (桃山学院大学3回生)
西村 友希 (桃山学院大学3回生)
森口紗奈絵 (京都精華大学3回生)
中井 智裕 (近畿大学3回生)
中森 洋介 (近畿大学3回生)
岡松 成美 (近畿大学3回生)
松永 由紀 (滋賀県立大学3回生)
池田 玲菜 (京都府立大学3回生)
馬場 勇介 (大阪経済大学3回生)
高原阿友美 (大阪経済大学3回生)
小形 亮 (大阪経済大学3回生)
山本 元 (立命館大学大学院公務研究科修士1回生)

財団法人 公害地域再生センター (あおぞら財団)

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階

TEL: 06-6475-8885



あおぞら財団
The Aozora Foundation

公益財団法人 公害地域再生センター

URL: <http://www.aozora.or.jp>

E-Mail: webmaster@aozora.or.jp

作成者 天谷 純 (2011年度インターン生)